

人形劇



デフ・パペットシアター・ひとみ

聴こえない人(ろう者=デフdefu)と聴こえる人が一緒に作り上げていく世界でたった一つのプロの人形劇団。1980年の立ち上げ以来、視覚的表現を追求する舞台を目指している。

原作

火野葦平「河童曼陀羅」国書刊行会

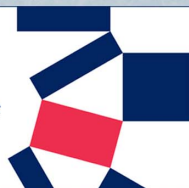
脚本・演出

立山ひろみ

河童と子どもたち、そしてある少女との交流、大人になったにんげん達と河童をめぐる物語。この世界はあなたにはどう見えていますか？

かわのわっぱ

文化
オリンピックアード



7月7日(日) 開場 13時30分 開演 14時

羽村市生涯学習センターゆとろぎ 小ホール

【全席自由】大人(前売り) 1,500円(当日) 2,000円 4才~高校生以下 500円 ※4歳未満の膝上鑑賞は無料

※一時保育あり(有料、申込は6月30日(日)までにゆとろぎ窓口へ)

プレイガイド ゆとろぎ窓口、羽村市スポーツセンター、西多摩新聞チケットサービス、マルフジ6店舗

問合せ:羽村市生涯学習センターゆとろぎ 042-570-0707(月曜休館、9:00~20:00)

主催:羽村市教育委員会 企画運営:ゆとろぎ協働事業運営市民の会

河の童

かわのわっぱ

人形劇

あらすじ

河童は、のんびり、平和にくらしています。井戸は自分の井戸で、鯉やゲンゴロウ、蟹なんかと一緒に、ゆったりゆらゆら。水はキラキラ輝いていて、世界は、そこにすべてがあります。足りないものなんてどこにもなくて。にんげんに会って、攻撃されたりするので、なるべく会わないようにしています。でもにんげんの小さいの、こどもと遊ぶのは大好きなので、たまに相手をしてやります。村に雨が降らなくなったある時、突然にんげんたちは、それを河童のたたりだと考えて…。河童とこどもたち、そしてある少女との交流、おとなになったにんげん達と河童をめぐる物語。

河の童

河童といえば、日本人にとっても親しみのある「あやかし」ではないでしょうか。ときには、川に馬や人間をひきずりこむといういたづらな存在として、また、ときには、畏れ敬われる、神様のようにも描かれています。地域によってもさまざまな伝説や言い伝えとして、受け継がれてきました。今回デフパペットでは、河童と人間のすれ違いや、河童にとっての大切な世界を丁寧に描いて、異なる世界に生きている河童と人間に焦点をあて「共に生きるとは」その本質に迫ります。「デフ・パペット・ひとみ」だからこそ出来る表現の可能性に迫りました。ぜひご期待ください。



デフ・パペットシアター・ひとみ

ろう者と聴者が協同してつくるプロの人形劇団です。

NHKと共同で「ひよっこりひょうたん島」を製作した、人形劇団ひとみ座を母体とし、お互いの感性を活かし合った目で観て楽しめる人形劇をつくることをミッションに活動を続けています。

「河の童-かわのわっぱ-」制作にあたって

火野葦平が書き溜めた「河童曼陀羅」をベースに、河童と人間の物語を人形劇にしました。デフパペットが37年間、「聴こえない・聴こえる」という違いを超えて活動を続けてきたことが、現代における『共生』という真の意味を考えるきっかけとなる作品になれば、と考えています。脚本・演出を手掛けるのは、様々なカンパニーの演出や脚本も手掛けながら、宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターも担当する立山ひろみ氏。立山氏も“表現の片鱗でしかないコトバの不自由さ”という問題意識から、身体表現、音楽、映像などの要素を台詞と等価値に位置付ける、新たな表現に挑戦してきた実績のある若手演出家です。立山氏とデフパペットのろう者と聴者の感性を、対話とワークショップを重ねることで、デフパペットだからこそとどろくことの出来る表現を創造します。

スタッフ

脚本／演出	立山ひろみ	人形美術	本川東洋子
舞台美術	大島広子	音楽	佐藤望
振付	向雲太郎	照明	後藤義夫
舞台監督	榎本トオル	美術進行	小倉悦子



●アクセス 立川駅からJR青梅線に乗り換え、羽村駅下車 東口より徒歩約8分
●連絡先・問合せ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ
〒205-0003 東京都羽村市緑ヶ丘1-11-5 TEL 042-570-0707 FAX 042-570-6422